

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-159656

(P2014-159656A)

(43) 公開日 平成26年9月4日(2014.9.4)

(51) Int.Cl.

A41G 3/00 (2006.01)

F I

A41G 3/00

N

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2013-30264 (P2013-30264)
 (22) 出願日 平成25年2月19日 (2013.2.19)

(71) 出願人 000126218
 株式会社アートネイチャー
 東京都渋谷区代々木3丁目40番7号
 (74) 代理人 100074099
 弁理士 大菅 義之
 (72) 発明者 五十嵐 祥剛
 東京都渋谷区代々木3丁目40番7号 株
 式会社アートネイチャー内
 (72) 発明者 長谷川 久美
 東京都渋谷区代々木3丁目40番7号 株
 式会社アートネイチャー内

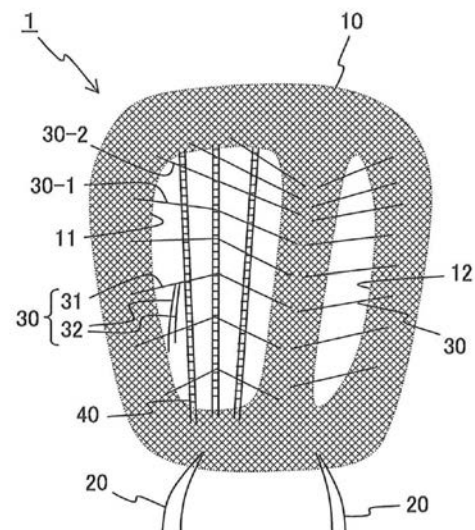
(54) 【発明の名称】 かつら、及び、かつらの製造方法

(57) 【要約】

【課題】 かつらベースの開口部に配置された蓑毛ユニットを備えるかつら及びかつらの製造方法において、蓑毛用毛髪の毛流れを簡単かつ確実に固定する。

【解決手段】 かつら1は、開口部11を含むかつらベース10と、かつらベース10に植毛されたベース用毛髪20と、蓑毛用ベース31と蓑毛用ベース31に取り付けられた複数の蓑毛用毛髪32とを含み、開口部11に架け渡された蓑毛ユニット30と、蓑毛ユニット30の蓑毛用ベース31と交差する方向に開口部11に架け渡され蓑毛ユニット30を固定する蓑毛固定部材40と、を備える。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

開口部を含むかつらベースと、
前記かつらベースに植毛されたベース用毛髪と、
蓑毛用ベースと該蓑毛用ベースに取り付けられた複数の蓑毛用毛髪とを含み、前記開口部に架け渡された蓑毛ユニットと、
前記蓑毛ユニットの前記蓑毛用ベースと交差するように前記開口部に架け渡され前記蓑毛ユニットを固定する蓑毛固定部材と、
を備えることを特徴とするかつら。

【請求項 2】

前記蓑毛固定部材は、該蓑毛固定部材の長手方向に延びる複数の縦系と、該複数の縦系間に架け渡された横系と、を含むことを特徴とする請求項 1 記載のかつら。

【請求項 3】

前記蓑毛ユニットは、前記蓑毛用ベースの向きが変化するように前記蓑毛固定部材に対し固定されていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 記載のかつら。

【請求項 4】

前記蓑毛ユニットは、前記蓑毛用ベースが一直線状になるように前記開口部に架け渡されていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 記載のかつら。

【請求項 5】

前記蓑毛ユニットは、前記蓑毛固定部材に対し複数箇所固定されていることを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれか 1 項記載のかつら。

【請求項 6】

前記蓑毛固定部材は、互いに間隔を隔てて複数個配置されていることを特徴とする請求項 1 から請求項 5 のいずれか 1 項記載のかつら。

【請求項 7】

前記蓑毛ユニットは、互いに間隔を隔てて複数個配置されていることを特徴とする請求項 1 から請求項 6 のいずれか 1 項記載のかつら。

【請求項 8】

蓑毛用ベースと該蓑毛用ベースに取り付けられた複数の蓑毛用毛髪とを含む蓑毛ユニットを、ベース用毛髪が植毛されるかつらベースの開口部に架け渡し、
前記蓑毛ユニットの前記蓑毛用ベースと交差するように前記開口部に架け渡した蓑毛固定部材により前記蓑毛ユニットを固定する、
ことを特徴とするかつらの製造方法。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、蓑毛ユニットを備えるかつら、及び、かつらの製造方法に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、かつらの増毛用にかつらベースに配置される蓑毛ユニットが知られている。この蓑毛ユニットは、例えば線状の蓑毛用ベースと、この蓑毛用ベースに植毛された複数の蓑毛用毛髪と、を含む。（例えば、特許文献 1 ～ 3 参照）

また、かつら装着者の頭髪を引き出すため或いは通気性を確保するために、かつらベースに開口部を設けたかつらが知られている（例えば、特許文献 4 及び 5 参照）。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開平 08 - 134709 号公報

【特許文献 2】特開 2000 - 303240 号公報

【特許文献 3】特開 2004 - 60060 号公報

10

20

30

40

50

【特許文献4】特開平11-107024号公報

【特許文献5】特許第4112302号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、上記の蓑毛ユニットを用いてかつらを製造する場合、蓑毛ユニットをかつらベースの必要な部位に必要なだけ貼り合わせることで容易にかつらを製造することが出来る。

【0005】

また、蓑毛ユニットを用いてかつらを製造する場合、低コストでかつらを製造できることや、後から異なる毛色のみの毛を付け足すことでヘアスタイルをアレンジしたり、毛量を増加したりすることができること等のメリットがある。

【0006】

蓑毛ユニットは、蓑毛用毛髪が例えば線状の蓑毛用ベースに取り付けられているため、かつらベースの開口部に配置された場合、蓑毛用毛髪が蓑毛用ベースを中心に回転したり蓑毛用ベース自体が回転したりする。そのため、蓑毛用毛髪の立ち上がりや向きを固定することが難しい。そこで、蓑毛用毛髪が一定方向に向くように蓑毛ユニットを設置した後に、パンチアイロンなどを用いて蓑毛用毛髪をセットすることになる。

【0007】

本発明の目的は、かつらベースの開口部に配置された蓑毛ユニットを備えるかつら及びかつらの製造方法において、蓑毛用毛髪の毛流れを簡単かつ確実に固定することができるかつらを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明のかつらは、開口部を含むかつらベースと、上記かつらベースに植毛されたベース用毛髪と、蓑毛用ベースとこの蓑毛用ベースに取り付けられた複数の蓑毛用毛髪とを含み、上記開口部に架け渡された蓑毛ユニットと、上記蓑毛ユニットの上記蓑毛用ベースと交差するように上記開口部に架け渡され上記蓑毛ユニットを固定する蓑毛固定部材と、を備える。

【0009】

また、上記かつらにおいて、上記蓑毛固定部材は、この蓑毛固定部材の長手方向に延びる複数の縦系と、これら複数の縦系間に架け渡された横系と、を含むようにしてもよい。

【0010】

また、上記かつらにおいて、上記蓑毛ユニットは、上記蓑毛用ベースの向きが変化するように上記蓑毛固定部材に対し固定されているようにしてもよい。

【0011】

また、上記かつらにおいて、上記蓑毛ユニットは、上記蓑毛用ベースが一直線状になるように上記開口部に架け渡されているようにしてもよい。

【0012】

また、上記かつらにおいて、上記蓑毛ユニットは、上記蓑毛固定部材に対し複数箇所固定されているようにしてもよい。

【0013】

また、上記かつらにおいて、上記蓑毛固定部材は、互いに間隔を隔てて複数個配置されているようにしてもよい。

【0014】

また、上記かつらにおいて、上記蓑毛ユニットは、互いに間隔を隔てて複数個配置されているようにしてもよい。

【0015】

本発明のかつらの製造方法は、蓑毛用ベースと該蓑毛用ベースに取り付けられた複数の蓑毛用毛髪とを含む蓑毛ユニットを、ベース用毛髪が植毛されるかつらベースの開口部に

10

20

30

40

50

架け渡し、前記蓑毛ユニットの前記蓑毛用ベースと交差するように前記開口部に架け渡した蓑毛固定部材により前記蓑毛ユニットを固定する。

【発明の効果】

【0016】

本発明によれば、かつらベースの開口部に配置された蓑毛ユニットを備えるかつらにおいて、蓑毛用毛髪の流れを簡単かつ確実に固定することができる。

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図1】実施の形態に係るかつらを示す概略図である。

【図2A】実施の形態における蓑毛ユニットの製造方法を説明するための説明図（その1）である。

10

【図2B】実施の形態における蓑毛ユニットの製造方法を説明するための説明図（その2）である。

【図2C】実施の形態における蓑毛ユニットの製造方法を説明するための説明図（その3）である。

【図3】実施の形態における蓑毛ユニットと蓑毛固定部材との固定箇所を説明するための説明図（その1）である。

【図4】実施の形態における蓑毛ユニットと蓑毛固定部材との固定箇所を説明するための説明図（その2）である。

【発明を実施するための形態】

20

【0018】

以下、本発明の実施の形態に係るかつら1について、図面を参照しながら説明する。

【0019】

図1は、実施の形態に係るかつら1を示す概略図である。

【0020】

かつら1は、かつらベース10と、ベース用毛髪20と、蓑毛ユニット30と、蓑毛固定部材40と、を備える。

【0021】

かつらベース10は、例えば網状のベースであるが、樹脂などにより形成される人工皮膚であってもよい。

30

【0022】

かつらベース10は、例えば2つの開口部11, 12を含む。

【0023】

開口部11, 12は、図1に示すようにかつらベース10の周縁と分離した位置に形成してもよいし、かつらベース10の周縁のうち、前頭部、左側頭部、右側頭部、及び後頭部の少なくとも1つに開口するように形成してもよい。或いは、開口部11, 12は、かつらベース10の周縁を除く全体に拡がって設けられた1つの開口部であってもよい。

【0024】

開口部11, 12は、かつら1の装着者の頭部の左右方向（図1でも左右方向）よりも前後方向（図1では上下方向）に長く形成されているが、開口部11, 12の形状は特に制限されない。なお、図1の右側の開口部12は、もう一方の開口部11と比較して幅が狭いため、後述する蓑毛固定部材40が配置されないが、蓑毛固定部材40が配置されていてもよい。また、蓑毛固定部材40が配置されない開口部12は、省略してもよい。

40

【0025】

例えば、開口部11の大きさは、左右方向の幅及び前後方向の幅のうち少なくとも一方（或いは、短手方向の幅）が30mm以上である。開口部11は、かつら1を装着する装着者の頭髪を引き出すためのものであってもよいし、単に通気のために形成してもよい。

【0026】

図1に4本（折り返して植毛される場合、実際は2本）だけ示すベース用毛髪20は、かつらベース10に植毛されている。ベース用毛髪20は、例えば、人工毛髪や人毛であ

50

る。ベース用毛髪 20 の植毛方法は、例えば結着であるが、接着など他の植毛方法であってもよい。

【0027】

蓑毛ユニット 30 は、例えば線状の蓑毛用ベース 31 と、この蓑毛用ベース 31 に取り付けられた複数の蓑毛用毛髪 32 とを含み、開口部 11, 12 に架け渡されている。蓑毛ユニット 30 は、例えば、互いに間隔を隔てて複数個配置されている。蓑毛ユニット 30 は、1 個のみであってもよい。

【0028】

蓑毛用毛髪 32 は、例えば、人工毛髪や人毛である。蓑毛用毛髪 32 は、図 1 では便宜上 2 本のみ図示するが、多数本配置してよい。

10

【0029】

図 2 A ~ 図 2 C は、実施の形態における蓑毛ユニット 30 の製造方法を説明するための説明図である。

【0030】

図 2 A に示すように、第 1 の棒状部材 101 と第 2 の棒状部材 102 との間で蓑毛用ベース 31 を架け渡す。蓑毛用ベース 31 は、第 1 の棒状部材 101 で折り返されて両端側が第 2 の棒状部材 102 に固定される例えば 1 本のテグスである（折り返し部分を挟んで一方が第 1 の線材 31a で他方が第 2 の線材 31b）。蓑毛用ベース 31 は、2 本の線材ではなく、1 本の線材であってもよいし、带状部材など他のベースであってもよい。

【0031】

20

なお、図 2 A 及び図 2 B では、第 1 の線材 31a と第 2 の線材 31b との間隔を便宜上大きく図示しているが、図 2 C に示すように第 1 の線材 31a と第 2 の線材 31b とは、ほぼ平行とすればよい。

【0032】

蓑毛用毛髪 32 の蓑毛用ベース 31 に対する結び方の一例としては、図 2 A に示すように、蓑毛用毛髪 32 を、下方から第 1 の線材 31a と第 2 の線材 31b との間に通し（符号 32 - 1 参照）、第 2 の線材 31b に対し上方から跨がせ、第 2 の線材 31b の下方に通す（符号 32 - 2 参照）。

【0033】

次に、蓑毛用毛髪 32 を、第 1 の線材 31a に対し上方から跨がせ（符号 32 - 3 参照）、再び、下方から第 1 の線材 31a と第 2 の線材 31b との間に通す（符号 32 - 4 参照）。

30

【0034】

そして、蓑毛用毛髪 32 を、再び、第 2 の線材 31b に対し上方から跨がせ、第 2 の線材 31b の下方に通し（符号 32 - 5 参照）、第 2 の線材 31b に対し上方から跨がせる（符号 32 - 6 参照）。その後、蓑毛用毛髪 32 の両端を引っ張れば、蓑毛用毛髪 32 が蓑毛用ベース 31 に結び付けられる。

【0035】

このように第 1 の線材 31a 及び第 2 の線材 31b に結び付けた蓑毛用毛髪 32 は、図 2 B に示すように一方（左側）に寄せていく。図 2 C に示すように、この作業を繰り返すことで、蓑毛用ベース 31 に蓑毛用毛髪 32 を複数本取り付け。この後、蓑毛ベース 31 を第 1 の棒状部材 101 及び第 2 の棒状部材 102 から切り出せばよい。

40

【0036】

次に、蓑毛固定部材 40 について説明する。

【0037】

図 3 に示すように、蓑毛固定部材 40 は、この蓑毛固定部材 40 の長手方向に延びる 2 本の縦系 41 と、この複数の縦系 41 間に架け渡された横系 42 と、を含む。蓑毛固定部材 40 は、例えば、はしご状を呈する。

【0038】

蓑毛固定部材 40 は、例えば、互いに間隔を隔てて複数個配置されている。複数の蓑毛

50

固定部材 40 の間隔は、蓑毛ユニット 30 の蓑毛用ベース 31 の太さや蓑毛用毛髪 32 の本数或いは蓑毛固定部材 40 の太さなどにもよるが、例えば、50 mm 以下、より望ましくは 30 mm 以下であるとよい。蓑毛固定部材 40 は、1 個のみであってもよい。

【0039】

なお、縦系 41 は、3 本以上であってもよく、また、横系 42 は、縦系 41 に対しジグザグに架け渡された 1 本の系であってもよい。また、蓑毛固定部材 40 としては、例えば 1 本の線状の部材であってもよいし、帯状の部材（例えば帯状のネット）などであってもよい。

【0040】

蓑毛固定部材 40 は、図 1 に示すように蓑毛ユニット 30 の蓑毛用ベース 31 と交差するように開口部 11 に架け渡され、蓑毛ユニット 30 を固定する。

10

【0041】

図 3 に示すように、蓑毛ユニット 30（蓑毛用ベース 31）は、蓑毛固定部材 40 に対し複数の固定箇所 S で固定されているとよい。もちろん、蓑毛ユニット 30 は、1 箇所の固定箇所 S で蓑毛固定部材 40 に固定されていてもよい。蓑毛ユニット 30 と蓑毛固定部材 40 との固定方法は、特に制限されないが、例えば、蓑毛固定部材 40 は、蓑毛ユニット 30 とは独立した人工毛髪やテグスにより蓑毛ユニット 30 を結び付けて固定する。

【0042】

蓑毛ユニット 30 は、図 4 に示すように、蓑毛用ベース 31 の向きが変化するように蓑毛固定部材 40 に対し固定されてもよい。その場合、図 1 に示すように、蓑毛用ベース 31 が一直線状にならない蓑毛ユニット 30 - 1 が形成される。

20

【0043】

それに対し、図 1 に示す蓑毛ユニット 30 - 2 は、蓑毛用ベース 31 が一直線状になるように開口部 11 に架け渡されている。

【0044】

上述のかつら 1 を製造する場合には、蓑毛ユニット 30 を、ベース用毛髪 20 が植毛されるかつらベース 10 の開口部 11 に架け渡し、次に、蓑毛ユニット 30 の蓑毛用ベース 31 と交差するように開口部 11 に架け渡した蓑毛固定部材 40 により蓑毛ユニット 30 を固定するとよい。

【0045】

30

なお、ベース用毛髪 20 のかつらベース 10 に対する植毛は、蓑毛ユニット 30 の開口部 11 における架け渡しの前であってもよいし、蓑毛ユニット 30 の開口部 11 における架け渡しと蓑毛固定部材 40 による蓑毛ユニット 30 の固定との間であってもよいし、蓑毛固定部材 40 による蓑毛ユニット 30 の固定の後であってもよい。

【0046】

また、蓑毛固定部材 40 の開口部 11 における架け渡しは、蓑毛ユニット 30 の開口部 11 における架け渡しの前であってもよい。

【0047】

以上説明した本実施の形態では、かつら 1 は、かつらベース 10 と、ベース用毛髪 20 と、蓑毛ユニット 30 と、蓑毛固定部材 40 と、を備える。かつらベース 10 は、開口部 11 を含む。ベース用毛髪 20 は、かつらベース 10 に植毛されている。蓑毛ユニット 30 は、蓑毛用ベース 31 と蓑毛用ベース 31 に植毛された複数の蓑毛用毛髪 32 とを含み、開口部 11 に架け渡されている。蓑毛固定部材 40 は、蓑毛ユニット 30 の蓑毛用ベース 31 と交差するように開口部 11 に架け渡され蓑毛ユニット 30 を固定する。

40

【0048】

そのため、蓑毛ユニット 30 が蓑毛固定部材 40 により固定されることで、蓑毛ユニット 30 において蓑毛用毛髪 32 が蓑毛用ベース 31 を中心に回転するのを抑えることができる。これにより、パンチアイロンなどを用いて蓑毛用毛髪 32 をセットする手間を省くことができる。

【0049】

50

よって、本実施の形態によれば、かつらベース 10 の開口部 11 に配置された蓑毛ユニット 30 を備えるかつら 1 において、蓑毛用毛髪 32 の毛流れを簡単かつ確実に固定することができる。

【0050】

また、本実施の形態では、蓑毛固定部材 40 は、この蓑毛固定部材 40 の長手方向に延びる複数（例えば 2 本）の縦系 41 と、複数の縦系 41 間に架け渡された横系 42 と、を含む。そのため、蓑毛ユニット 30 を蓑毛固定部材 40 に簡単かつ確実に固定することができる。したがって、蓑毛用毛髪 32 の毛流れを確実に固定することができる。

【0051】

また、本実施の形態では、蓑毛ユニット 30 は、蓑毛用ベース 31 の向きが変化するよう
10
に蓑毛固定部材 40 に対し固定されている。そのため、蓑毛用毛髪 32 の毛流れをかつら 1 の位置に応じて自在に固定することができる。

【0052】

また、本実施の形態では、蓑毛ユニット 30 は、蓑毛用ベース 31 が一直線状になるよう
に開口部 11 に架け渡されている。そのため、蓑毛用毛髪 32 の毛流れを簡単に固定
することができる。

【0053】

また、本実施の形態では、蓑毛ユニット 30 は、蓑毛固定部材 40 に対し複数箇所 S で
固定されている。そのため、蓑毛用毛髪 32 の毛流れを確実に固定することができる。

【0054】

また、本実施の形態では、蓑毛固定部材 40 は、互いに間隔を隔てて複数個配置されて
20
いる。そのため、開口部 11 が大きくとも蓑毛用毛髪 32 の毛流れを確実に固定する
ことができる。

【0055】

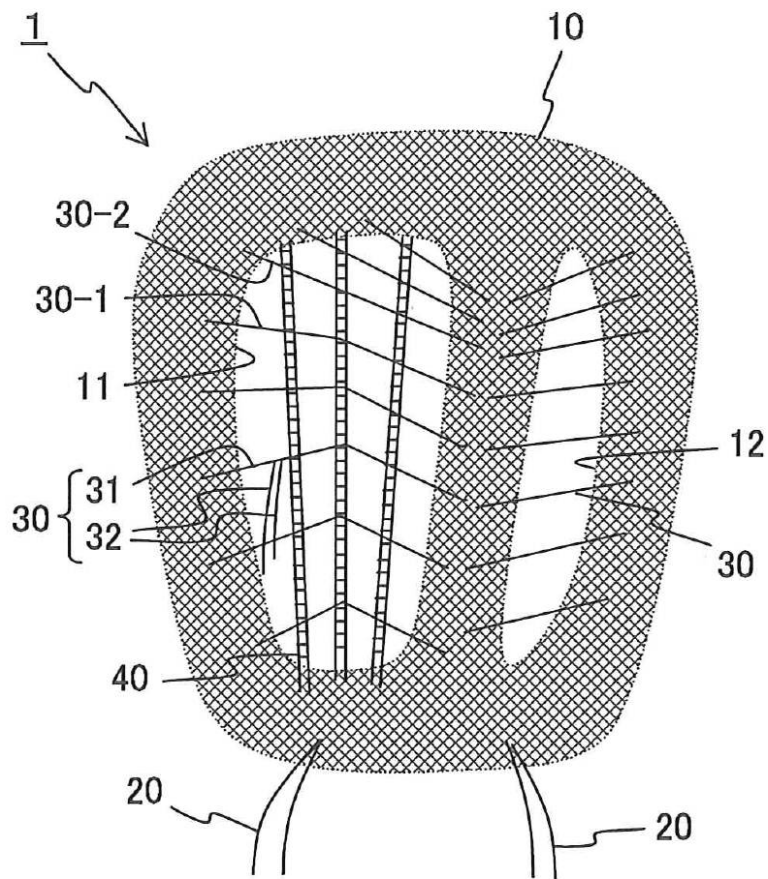
また、本実施の形態では、蓑毛ユニット 30 は、互いに間隔を隔てて複数個配置されて
いる。そのため、複数の蓑毛ユニット 30 の蓑毛用毛髪 32 の毛流れを簡単かつ確実に固
定することができる。

【符号の説明】

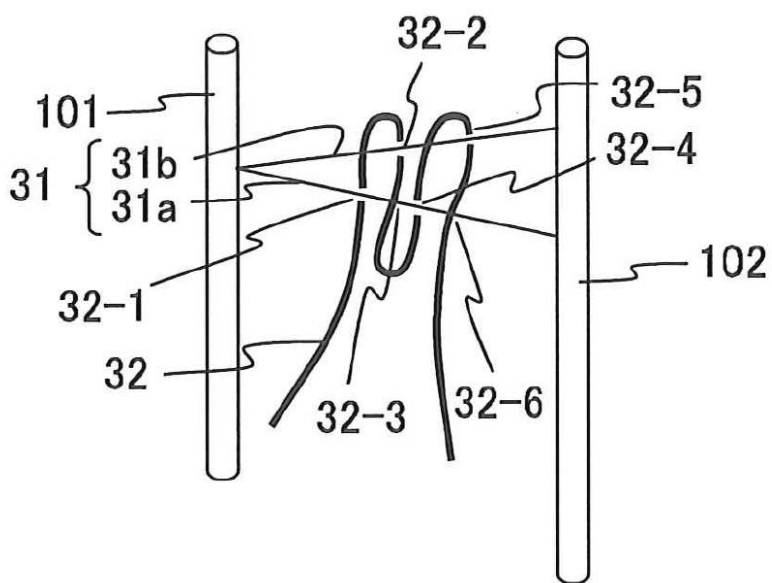
【0056】

1	かつら	30
10	かつらベース	
11	開口部	
12	開口部	
20	ベース用毛髪	
30	蓑毛ユニット	
31	蓑毛用ベース	
31 a	第 1 の蓑毛用ベース	
31 b	第 2 の蓑毛用ベース	
32	蓑毛用毛髪	
40	蓑毛固定部材	40
41	縦系	
42	横系	
101	第 1 の棒状部材	
102	第 2 の棒状部材	
S	固定箇所	

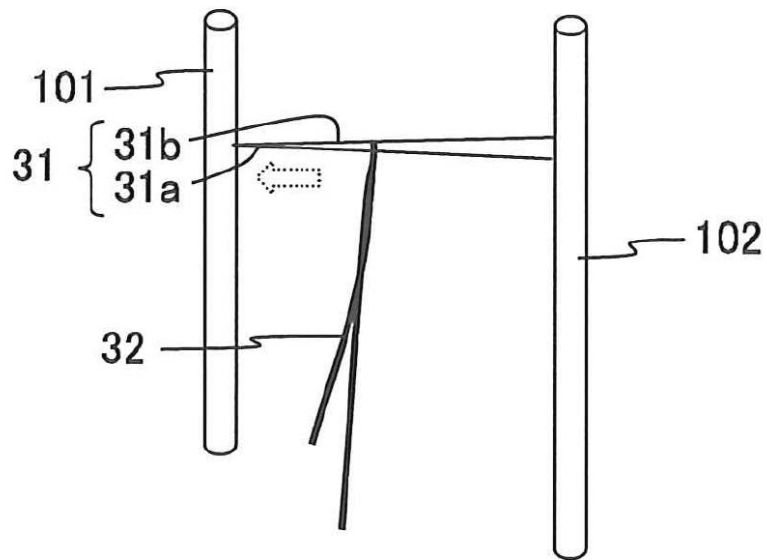
【図 1】



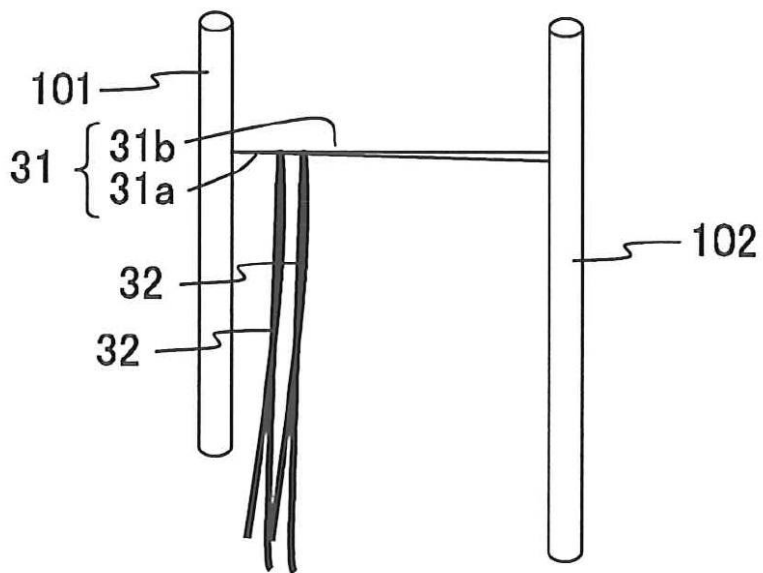
【図 2 A】



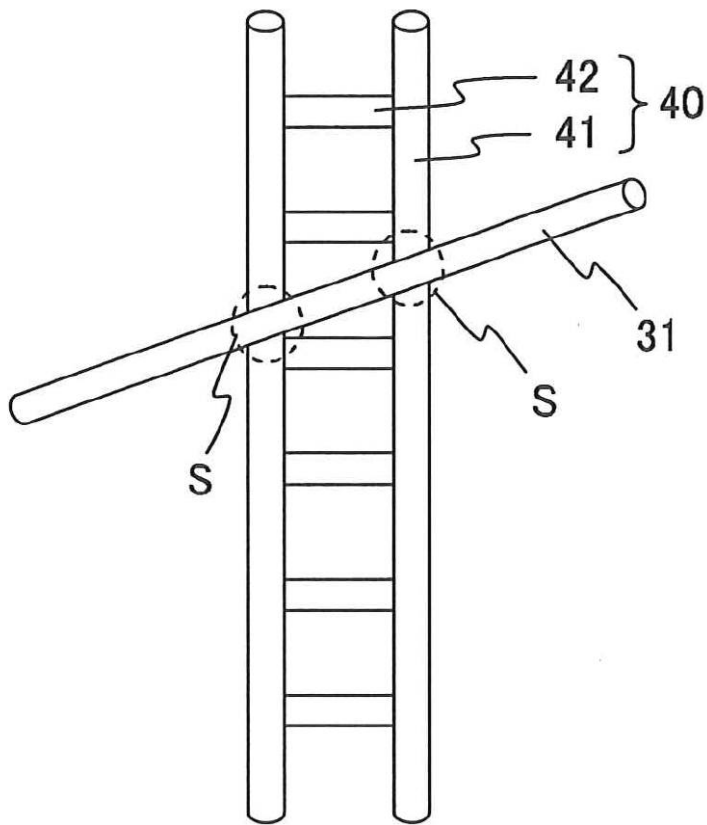
【図 2 B】



【図 2 C】



【図 3】



【図 4】

